



芸術文化振興基金助成事業

劇団 東宝現代劇 75人の会 第26回公演



深川木場の老舗銘木店堀川商店にも、
時代の大きな変動、近代化の波が押し寄せる。
皆は団結して時代のうねりに
戦いを挑むのだったが……

2011 / 10月7日[金] ~ 10日[月]

深川江戸資料館 小劇場

深川物語

横澤祐
作/演出

水の行方
みづのゆくえ

水の行く方

みずのゆくえ

深川物語



鈴木 雅 今藤 乃里夫 新井 みよ子 村田 美佐子 菅野 園子



大石 剛 丸山 博一 内山 恵司 高橋 志麻子 松川 清



古川 けい 田嶋 佳子 柳谷 慶寿 秋田 宏

客 演



伊東 詩織 山東 亜季 小西 良太郎

(ダブルキャスト)

【スタッフ】

作/演出 横澤 祐一

美術 吾郷 順治
 照明 須藤 実
 効果 富田 健治
 協力 東宝(株)演劇部
 制作 劇団東宝現代劇75人の会
 宣伝美術 河添 宗輔

元禄の頃、現在の町名標識で言えば木場と東陽町、佐賀、福住辺りに移転した材木置き場、即ち木場は、明治維新、関東大震災、戦災などを乗り越え発展した。ところが、昭和30年代になると木場を取り巻く情勢が変化し、移転が必要となった。都の「中小企業の近代化、体質改善を図る」との名目のもと、1千軒もの材木関連会社、商店が、現在の新木場に移転を余儀なくされた。新木場には人は住めない。会社のみが組合に入り、区画整理に合わせた商業団地で新しい商売を始めたのが昭和51年である。270年にわたり住まいと店先が一つであった木場の人々の中には、この生活信条の変化について行けなくなり、廃業に追い込まれた人達も少なからずあったであろう。今また、築地市場の移転が決定しつつある。行政と改革の狭間で大きな時代の流れに浮き沈んでいった人々の姿を、一軒の商店の軒先を借りて描いていきたい。また、当会がおよそ20年ぶりに深川の地で公演するにあたり、観客の皆様と合わせて芝居の舞台となる木場の近くで江戸の空気も味わって欲しい。

2011/10月7日[金]~10日[月]

深川江戸資料館 小劇場 江東区白河1-3-28 Tel 03-3630-8625

入場料【当日】 ¥5,000
 【前売り】 ¥4,500
 (日時指定:全席自由席)

	7(金)	8(土)	9(日)	10(月)
13:00	●	●	●	●
17:00	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●

◆チケットのお申し込み・お問い合わせ◆

劇団東宝現代劇75人の会 Tel.080-1193-8697

9/15(木)より受付開始 【受付時間】13:00~17:00



【交通】
 東京メトロ半蔵門線/都営大江戸線
 清澄白河駅下車:A3出口より徒歩3分